

蒲郡市議会傍聴記

地方政治
クリエイト

伊藤 秀昭

降り注ぐ太陽に光る蒲郡の海、アジサイを揺らす風が夏の到来を告げている。

6月定例議会には17人が登壇し、9日から3日間、一般質問を行った。
■子どもは国の宝
来本健作氏(無党派)は子どもたちの健やかな成長と魅力ある学校づくりについて取り上げた。
質問の中で「子ども

スマホ社会の中で、子どもたちの世界もまた激変しているわけだ、健全な子ども育成にどう向かうかという教育課題が浮上していることを印象づけた質問だった。

興・働く場の確保、子どもが安心して暮らせるまちづくり、健全な子ども育成にどう向かうかという教育課題が浮上していることを印象づけた質問だった。

台用意し、1年間の貸し出しを行う事業について8年目であり、もっと積極的なPR活動が必要ではないか。また、高齢者の足確保の観点から電動アシスト自転車の購入補助を厚くした。

働きかけていくとした。見直しは随時図られている実態が示され、勤務時間外の部活動は、原則教員のボランティアであり、教職員の多忙化の一因ともなっている。教育長は「部活動の課題も、学校だけでなく、地域や家族と問題を共有して、見直しを図っていく必要性」を強調した。

活性化へ、多角度からの提案

■施策の総括
市長の取り組んできた施策の総括を試みたのは竹内滋泰氏(自民)。
「堅実な行財政運営」「安心してお産・子育てのできる町づくり」「産業の振

ついては「蒲郡市公共施設マネジメント実施計画」では「おおむね3割の床面積の縮減と長寿命化による費用の平準化により、多大な費用が必要である」と指摘した。

建設部長は99年度の国のシブルー事業になどより三河湾の海域環境が改善され、自然環境が確保されてきた経過を踏まえ、「豊穠(ほうじょう)の海」を目標として、国・県に強く

学校の「働き方改革」が要請される時代に、教員の長時間労働の要因である部活動のあり方は大きな教育課題だ。